

群馬の畜産

みんなの情報室

第316号

発行日
平成25年3月29日

発行:公益社団法人 群馬県畜産協会
〒379-2147 前橋市亀里町1310 群馬県JAビル 6階/TEL:027-220-2371(代) FAX:027-220-2372
ホームページ:<http://www.chikusankyokai.or.jp>



農林業就職面接会にて面接を受ける農林大学校生

目

次

◎畜産人材の確保育成を目指して	2
◎農林業就職面接会	2
◎ぐんま型シェアミルキング推進事業	3
◎群馬の豚生産農場登録事業	3
◎女性畜産農業者交流会	4

◎家畜防疫互助基金事業	4
◎肉用牛合同研修会開催	4
◎群馬県養豚協会主催による各種研修会を開催	5
◎和牛に係る遺伝子型検査(親子判定)の方法が変わります	6
◎畜産新技術	7
◎お知らせ	8

畜産人材の確保育成を目指して

公益社団法人 群馬県畜産協会

専務理事 宮川 均

畜産を取り巻く環境は、皆様方がご承知のように、平成18年から続いている配合飼料価格の高値での推移、福島第一原発の事故による放射性物質の畜産物への汚染問題、それに伴う畜産物の消費量減少による取引価格の低迷、収益性の低下による後継者不足など、非常に厳しい状況が継続している状況です。

また、TPP参加による本年農業への影響として、県が本年3月26日に公表した試算では、その影響額は、産出額で約505億円(平成21年度産出額:825億円)となり、本県畜産に甚大な影響を及ぼすとされています。

このように畜産情勢の厳しさが増す中であって、総合的な畜産支援対策を実施する本会に対しては、安定的で継続可能な畜産経営の育成や支援をはじめ様々な役割が求められており、そのひとつが、担い手の確保対策や新規就農者確保対策です。

ご承知のとおり、新たに畜産経営を始めるにあたっては、畜舎や家畜などにかかる初期投資が多額であり、加えて、生産物の販売が開始されるまでの飼養期間等が長期となり、これらが新たに畜産業への参入を希望する方への高いハードルとなっています。

このため、県では、酪農経営の「担い手確保対策」として、平成23年度に「ぐんま型シェアミルク推進事業」を創設、本会が事務を受託して、離農予定農家の施設や搾乳牛を新規就農希望者に継承する仕組みや、自給飼料生産に根ざした堅実な酪農経営体に対し、将来の経営移譲に向けた支援を実施しています。

さらに、本会独自の取り組みとして、規模拡大等による経営の安定化を希望する農家等に対し、無料職業紹介事業を実施し、人材確保への支援や就農希望者等の相談にも取り組んでおります。

昨年には、経営者の高齢化による経営継承を希望する農家からの相談もあり、関係団体等で協議検討し経営移譲に向けた具体策について現在取りまとめているところであります。

本会としては、新たに畜産経営を開始しようとしている人たちが、希望をもち安心して生産活動に取り組み、さらには経営の継続が図られるよう、行政機関やJA等関係団体との連携のもと、各種支援事業を活用して、積極的に支援して参りたいと考えております。

■農林業への就職希望者が集まった 農林業就職面接会

県内における農業への新規就農者等の確保育成を目的に、群馬県JAビル大ホールにて、平成25年1月24日(木)には群馬労働局主催の「農林業就職面接会」、2月16日(土)にはJAグループ群馬が主催する「就職就農ガイダンス」が開催されました。

当協会並びに群馬県新規就農相談センター(群馬県、群馬県農業会議、群馬県農業公社)による就職・就農についての就農相談を実施しました。

当協会においては、畜産分野を中心とした就職、特に酪農ヘルパーへの就業に対するご相談、また、現在、検討を進めている畜産(酪農)における経営継承についてのPR活動を行い、多くの就農希望者からのご相談をいただきました。

今年度は、県立農林大学校の学生(1年生を含む)の就職活動が積極的に行われている様子が特に印象的で、聞かれる声の多くは「県内の牧場で働きたい」「ホルスタインが大好きだ」と働く場を求める声でした。

当協会としても、特に法人化した大規模畜産農家への雇用を呼びかけるとともに、安定した雇用を創出できる仕組みづくりなどへの支援を行い、県立農林大学校をはじめとする人材育成機関や農業高校などとの連携を強化していきたいと考えています。



農林業就職面接会の様子



事業所で話を聞く県立農林大学校の学生

■経営資産の有効活用と担い手の確保育成に ぐんま型シェアミルキング推進事業

今年度、県の委託を受け実施してきた「ぐんま型シェアミルキング推進事業」について、3月19日(火)第2回の推進委員会が開催されました。

本事業は、本県の畜産(酪農)における円滑な経営継承を推進するため、関係機関(JA中央会、群馬県農業公社、群馬県農業会議、牛乳販連、県(技術支援課・畜産課)、当協会の7つの機関団体により検討を行っているものです。

今回は、経営継承に興味関心のあると回答のあった農家への訪問聞き取り調査の結果及び就農希望者等へのPR活動等から、本県における経営継承システムの構築に向けての具体案を取りまとめ、当協会として「経営継承システムについて」お示しをしました。



調査の様子

◆畜産経営システム(案)◆

- 酪農ヘルパー利用組合を「受入指導機関」とし、新たな農業者(継承者)を育成
- 継承者を「臨時ヘルパー」としてヘルパー業務と就農研修を併用して研修を実施
- 技術取得について「評価制度」を導入
- 多様な継承方法に対応(段階的継承など)

お示した経営継承システムは、幅広い新規就農希望者を受け入れることができる体制として、飼育・経営管理技術などの習得と、地域への順応より効果的に実施するため、「酪農ヘルパーを併用した就農支援」を行おうとするものです。

今後、各酪農ヘルパー利用組合の実情を踏まえたうえで、酪農ヘルパー利用組合と協議を進めながら、当協会と県関係機関、地域とが連携した新たな畜産農業者の確保育成対策を進めていきます。

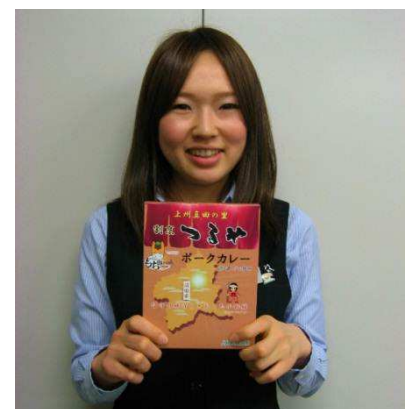
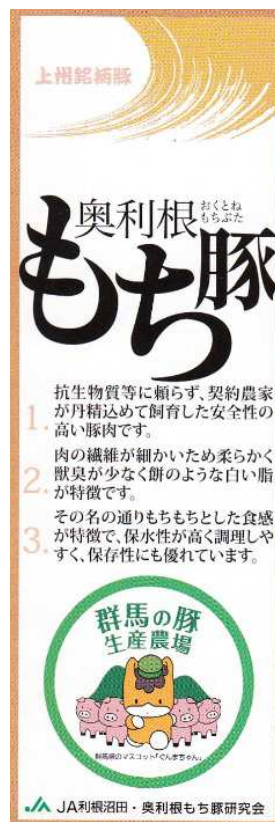
■奥利根もち豚を使ったカレーの販売を開始 群馬の豚生産農場登録事業

本会が定めた基準に適合する農場を『群馬の豚』生産農場として登録し、群馬県産豚の知名度の拡大、群馬県産豚肉の消費拡大につなげようとしている「群馬の豚」生産農場登録事業は、今年度末で登録件数が6件となりました。

○『群馬の豚』生産農場登録一覧

奥利根もち豚研究会	川場村
有限会社森田養豚	桐生市
有限会社小黑養豚	伊勢崎市
ミツバピッグファーム	高崎市
はつらつ豚研究会	太田市
JA 前橋市養豚部会	前橋市

第1号の認証を受けた「奥利根もち豚研究会(JA沼田)」においては、「割烹つるやポークカレー」として、奥利根もち豚を使った地元の料理店が作るカレーと奥利根もち豚とコラボさせた商品を開発し販売開始しました。



「割烹つるやポークカレー」と生産農場認証マーク

地元有名割烹が作るカレーともあり、和テイストで奥利根もち豚の特性を生かした豚肉の脂の深い甘さと、後からやってくるスパイシー感とは他では味わえない味です。

現在、肉の駅(食肉卸売市場(玉村町))で販売しているほか、今後、販路を拡大するとのこと。

■群馬の野菜を再認識 畜種を超えた意見交換 女性畜産農業者交流会

畜種を超えた女性畜産農業者の交流会を、3月28日(木)、渋川市において開催しました。

今回は、野菜ソムリエ&ベジフルビューティアドバイザーで、県の食育推進サポーターを務める竹下裕理さんを講師にお招きし、生産現場では触れる機会の少ない野菜や果物の話をお聞きしました。



意見交換の様子



講師の竹下裕理氏

講師の竹下さんは、アナウンサーとして、現在、FMぐんまの朝の番組に出演し、また群馬テレビなどのリポーターなどを務める傍ら、群馬の野菜の素晴らしさを伝える野菜ソムリエとして広く活動されています。

参加者の中からは、普段みかけることのない野菜が県内で生産されていることや、おいしい食べ方、また健康と美を維持するための野菜の摂取方法など、群馬県内の野菜についてお話をいただきました。

昼食は高崎にある「国府野菜本舗」の地物野菜をふんだんに使ったお弁当を食べ、午後は畜種を横断した女性農業者の皆様からのお話をいただきました。



竹下さんを囲んで

お話の中で、畜種や規模の違いから畜種を横断して集まることの難しさなども語られましたが、今後も継続して集まれる場を設け、意見交換を継続していくこととしました。

■伝染病等の発生に万全の備えを 家畜防疫互助基金事業

3か年ごとに実施してきました本互助事業は、平成24年度から新たな3か年事業としてスタートしました。

現況下、我が国周辺の海外悪性伝染病の発生状況等を鑑みますと、その発生に備えて、引き続き、本事業への加入促進が必要と考えることから、今後も周知や加入促進にご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

事業のポイント

口蹄疫や豚コレラ等の海外悪性伝染病が一旦発生すると、地域の畜産に大きな被害を及ぼします。

このことから、生産者が万一の発生に備えて、互助基金を造成し、疾病が発生した場合の農場の経営再開のための損失等を補てんします。

互助金の財源は、

生産者1:国((独)農畜産業振興機構)1で交付されます。

(例:乳用牛(24か月齢以上)生産者積立金単価 260円/頭→経営支援互助金の上限交付額 190,000円/頭)

👉 今年度から互助金の交付対象に予防的殺処分となった家畜が追加されました。

👉 家畜伝染病予防法に基づき、移動制限等が実施されている区域の生産者は、その間、新たに加入できません。

事業へのご加入や詳しい事業内容等については、畜産協会までお問い合わせください。

■全共2連覇 宮崎県の実績などを勉強 肉用牛合同研修会開催

平成25年3月1日、群馬県JAビル1階大ホールにおいて、(公社)群馬県畜産協会等6団体の共催による肉用牛合同研修会が開催され、県内の和牛繁殖農家、肥育農家など計198名が参加しました。

この研修会は毎年3月に開催されており、県内の和牛生産技術の向上に資することを目的に開催したものです。

第1部では、県内の繁殖和牛の育種価評価の結果、社団法人家畜改良事業団の種雄牛情報、渋川子牛市

場の概況などについて紹介がされました。

第2部では、一般社団法人宮崎県家畜改良事業団の川田洋一氏から「地域に根ざした和牛生産についてー和牛全共2連覇の歩みー」と題してご講演いただきました。

宮崎県は、平成24年10月25～29日に長崎県で開催された第10回全国和牛能力共進会において、出品区9区のうち5区で優等首席を獲得するという輝かしい実績を得ていますが、3年前に発生した口蹄疫という大きな試練を乗り越えて前進してきた結果でもあり、その努力は他県と比べられないほどのものであったと推察されます。

川田氏によると、ひとえに関わる人間の強い気持ちが成したものであるとのことでしたが、長年にわたって宮崎牛の改良と種雄牛造成に取り組んで得た経験や技術もあつての事であろうと思われました。講演後は、本県の全共出品者を始めとして多数の方から質問や意見が川田氏へ投げかけられるなど、繁殖農家・肥育農家ともに積極的に聴講していることが窺えました。



合同研修会の様子



講演をする川田氏

■養豚農家の交流と研鑽を深めるために 群馬県養豚協会主催による各種研修会を開催

①女性のための研修会

平成25年3月5日、前橋市、音羽倶楽部において、県内の養豚経営に関わる女性を対象とした研修会・情報交換会を、全国畜産いきいきネットワークの会長である佐藤弘子氏を講師に招き開催しました。

最初に、宮崎県で口蹄疫の被害に遭われた肉用牛肥育農家の体験談に基づく朗読劇を、出席者4名とナレーターとして佐藤会長により行われ、口蹄疫発生時の状況が生々しく朗読され、悲慘さが伝わりましたが、その後の宮崎県が新生宮崎として、ピンチをチャンスに変える行動に移っていて、毎月20日を県内農家が一斉に消毒を行う「消毒の日」とするなど、前向きに取り組んでいることに参加者の方々も感心しながら聞いておられました。



講演をする佐藤氏

また、このネットワーク(全国の畜産女性の会)の各地域で取り組んでいる活動と、自己の経営が長野県の雪深い地域にあるため、養豚経営を行うことの厳しさをお話しいただくほか、二人のお子さんをエンジニア、医者として育て、また、養豚の後継者としてハローワークを通じ、28才の青年が毎日仕事に来てくれていて、将来は、この青年に経営移譲をと考えていることも話され、何事にも前向きな取り組みに聞き入っていました。

②養豚基礎セミナー

平成25年3月7日、群馬県産業技術センターにおいて、24年度第4回目となる養豚基礎セミナーを開催しました。

今回は、講師として Breeders of denmark (ブリーダーズオブデンマーク) 社(種豚輸出会社)よりヤコブ氏、DM AGRO (ディーエム アグロ) 社(農場マネジメントコンサルタント会

社)よりペア氏のお二方を招き、通訳・案内人として砂川徹氏のご協力のもと、ご講演いただきました。

ヤコブ氏からは、デンマークにおける豚肉生産は、デュロック種(D)、ランドレース種(L)、大ヨークシャー種(W)を利用した生産が主体で、この生産に使われている種豚の繁殖能力で特に産子数の多さ、LP5(生後5日までの生存率)を重点に改良方法が紹介された。また、産肉性においても、各品種の雌雄別での増体量の違いについて、表1のような結果を得ていることなどが紹介された。

ペア氏からは、デンマークでコンサルしている養豚経営664戸の繁殖成績が紹介され、トップ156戸(25%)の1母豚当たり31.5頭以上、345戸(50%)で29.0頭、163戸(25%)で25.9頭生産されていることが話され、高い繁殖成績を具体的な数値で示されました。

そのほか、AI時の繁殖豚への人為的な刺激、オキシトシンの分泌、繁殖豚への給餌量、飼料成分等の技術的な話題も紹介いただき、出席者から関心が示されたようです。



Breeders of Denmark 社ヤコブ氏(上)と通訳の砂川氏(下) DM AGRO 社 ペア氏

品種別・雌雄別・ステージ別の1日増体量の平均値

品種	性別	頭数	①生後から 30kg まで	②30kg～100kg まで
デュロック種	♂	6,673 頭	390g	1,094g
	♀	8,667 頭	393g	1,053g
ランドレース種	♂	15,193 頭	375g	1,004g
	♀	20,543 頭	379g	950g
大ヨークシャー種	♂	14,041 頭	360g	960g
	♀	17,700 頭	363g	920g

和牛に係る遺伝子型検査(親子判定)の方法が変わります

これまで、和牛の親子判定の検査は、毛根試料によるマイクロサテライト(MS)判定を行っていましたが、今後は新しい判定法として鼻腔内粘膜試料を用いるSNPs判定を取り入れることとなりました。

将来的には、鼻腔内試料による親子判定一本化となりますが、現在は移行期であるため、両試料による判定法が混在することになります。

検査種類と採取試料のパターンについて

牛の種類	採取する試料	備考
①ET産子	鼻腔内試料 または 毛根 ※ (判別困難な場合は両方の試料を採取)	両方の試料が送付された場合、判定に必要な試料のみ解析
②現場検定、調査牛		
③一般の親子判定		
④ドナー牛	両方の試料 (鼻腔内試料と毛根)	両方の試料について解析を実施し、SNPsとMSの両方のデータを蓄積
⑤直接検定牛・種雄牛候補牛・登録申請雄牛		
⑥ ⑤の母牛		

※ET産子の検査の場合、SNPs データベースの構築が進み、父・母ともに SNPs 試料番号が設定されている場合は、鼻腔内試料を送付する。父母どちらかが不明な場合は毛根。

畜産新技術

群馬県立畜産試験場における試験研究成果及び研究報告等広く新技術としてご紹介します

飼料用米を利用した飼料費の削減

研究のねらい

これまでの研究により、トウモロコシの代替に飼料用米を配合し、離乳子豚に給与すると、良好な発育成績が得られ、下痢が減ることを明らかにしました。

一般に離乳子豚用飼料には、脱脂粉乳が多く配合されているが、脱脂粉乳は良質なタンパク質を含む反面、高価な飼料原料です。一方、タンパク源として利用される大豆粕は、安価な原料ですが、下痢の原因となる抗原物質を含むため、離乳子豚用飼料にはあまり用いられていません。

以上のような各飼料の特性を考慮し、生産性を損なうことなく、安価なものに置き換えることができれば、飼料費削減に向けてメリットは大きいものと考えられます。そこで、飼料用米を利用し、乳成分（脱脂粉乳）の配合割合を低減した飼料費削減技術について検討を行いました。

技術の特徴

離乳子豚用飼料に飼料用米を配合すると、

脱脂粉乳の配合割合を10%水準まで低減しても発育遅延は見られず、飼料費の削減が期待出来ます。

1 試験方法

トウモロコシを飼料用米で代替し、脱脂粉乳を10%配合した乳成分低減飼料に、エクストルーダー処理大豆粕を加えた飼料を、3～6週齢の離乳子豚に給与しました。

※エクストルーダー処理＝高温高压処理（下痢の要因となる抗原物質を除去）

2 試験結果

- (1) 発育遅延は見られません（図1）。
- (2) 下痢発生日数が減少します（図2）。
- (3) 飼料用米の流通価格を45円/kgとすると、飼料1kg当たりの原料価格で18.9円のコスト削減につながります（表1）。

今後の取り組み

脱脂粉乳の配合割合の多い、餌付け用飼料を対象とした技術開発に取り組む予定です。

（執筆者：片野 良平）

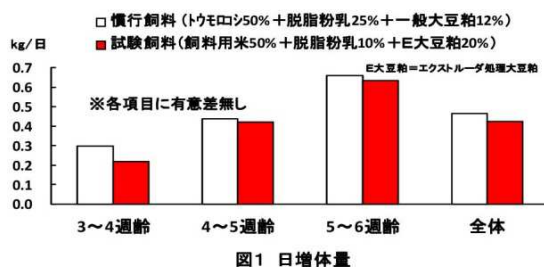


図1 日増体量

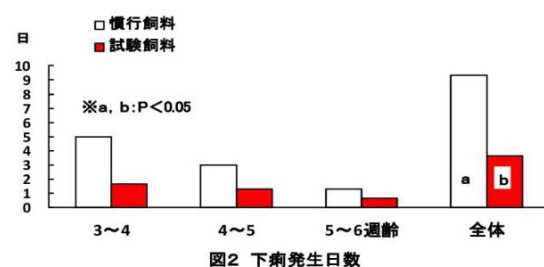


図2 下痢発生日数

表1 飼料1kg当たりの原料価格差									
飼料用米価格	慣行飼料				乳成分低減飼料				
	トウモロコシ50%配合	大豆粕12%配合	脱脂粉乳25%配合	計(A)	飼料用米50%配合	E大豆粕20%配合	脱脂粉乳10%配合	コーンスターチ5%配合	計(B)
40	14.3	4.5	69.3	88.1	20.0	14.8	27.7	4.2	66.7
45	14.3	4.5	69.3	88.1	22.5	14.8	27.7	4.2	69.2
50	14.3	4.5	69.3	88.1	25.0	14.8	27.7	4.2	71.7

単位: 円/kg

※トウモロコシ28.5円/kg、大豆粕37.9円/kg、脱脂粉乳277円/kg(H23.6～11貿易統計)、コーンスターチ84.4円/kg(H22貿易統計)

※エクストルーダー処理大豆粕(E大豆粕)の価格は一般大豆粕の1.95倍とした

※配合内容が大きく異なる原料のみ表示

※予算区分：実用技術初事業

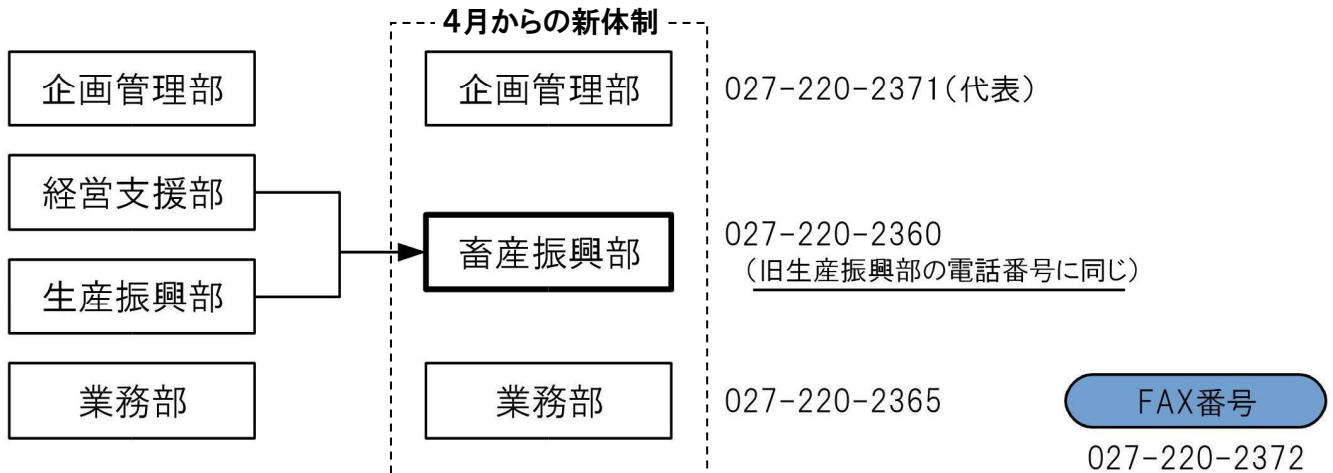
連絡先：畜産試験場 中小家畜係（電話027-288-2222）

畜産協会は4月から「3部体制」となります

当会は、4月より、業務の推進体制を強化するため、これまでの4部体制から3部体制へ変更させていただくこととなりました。

当会としての業務内容については変更ありません。

群馬県畜産協会の部構成とダイヤルイン電話番号



地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています

みんなで行こう！ケイバ！南関東4競馬場開催日程

群馬で競馬をするなら高崎場外です。高崎場外は旧高崎競馬場跡地を利用した場外馬券売り場です。開催日には高崎駅東口から無料シャトルバスを運行しており、大変便利です。

2013年 4月			2013年 5月		
1 月 船橋	16 火 川崎	17 金 大井	1 水 浦和	17 金 大井	
2 火 船橋	17 水 川崎	18 土	2 木 浦和	18 土	
3 水 船橋	18 木 川崎	19 日	3 金 浦和	19 日	
4 木 船橋	19 金 川崎	20 月 川崎	4 土	20 月 川崎	
5 金 船橋	20 土	21 火 川崎	5 日	21 火 川崎	
6 土	21 日	22 水 川崎	6 月 船橋	22 水 川崎	
7 日 大井	22 月 大井	23 木 川崎	7 火 船橋	23 木 川崎	
8 月 大井	23 火 大井	24 金 川崎	8 水 船橋	24 金 川崎	
9 火 大井	24 水 大井	25 土	9 木 船橋	25 土	
10 水 大井	25 木 大井	26 日	10 金 船橋	26 日	
11 木 大井	26 金 大井	27 月 浦和	11 土	27 月 浦和	
12 金 大井	27 土	28 火 浦和	12 日 大井	28 火 浦和	
13 土	28 日	29 水 浦和	13 月 大井	29 水 浦和	
14 日	29 月 浦和	30 木 浦和	14 火 大井	30 木 浦和	
15 月 川崎	30 火 浦和		15 水 大井	31 金 浦和	
			16 木 大井		

◆高崎場外馬券場所在地

群馬県高崎市岩押町 12-16
お問合せ：027-326-5648



詳しくは南関東4競馬場サイト：<http://www.nankankeiba.com/index.html> をご覧ください

今回も「群馬の畜産 みんなの情報室」をお読みいただきありがとうございます。先日、J A 利根沼田が「奥利根もち豚」を使った地元有名店のコラボカレーを開発し販売を始めました。この力に使われている豚は当会の「群馬の豚生産農場登録事業」により登録された農場で生産されています。

J A 利根沼田では、このほかにも、自組合員が生産したいちごや牛乳を使い、軽井沢の有名店がジャムを作るなど、地元有名店とのコラボ商品を生み出し続けています。

J A が自組合員と連携した原材料供給から地元企業とのコラボ企画の提案、商品開発、販売まで「農工商」を巻き込んだ「地域6次化」と「地産地消」の取組みを実践しています。

また、原材料は企業の高いニーズに対応できる農家に生産を依頼し供給していることから、生産農家のモチベーションのアップにも役立っているとのことでした。

農業を取り巻く環境は厳しい昨今ですが、地域を元気にするキーワードは、ひよっとすると、とても身近なところあるのかもしれない。(K)

編集後記